

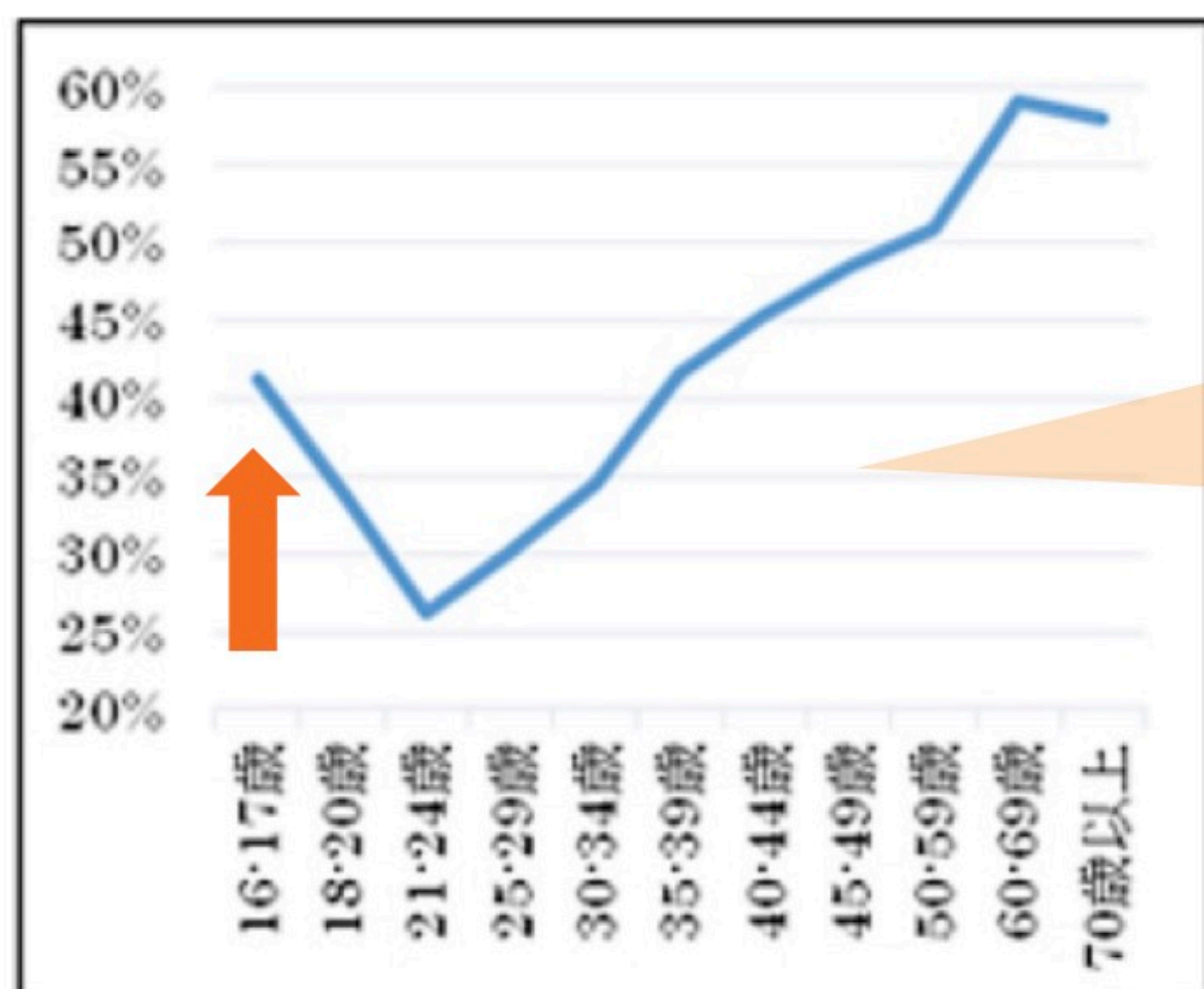
— 若者が未来の社会を動かす国へ — 16歳からの投票権

『16歳はまだ若すぎる!?!』

30年、40年後の未来を作るのは、今の若い世代です。昔の日本では元服を経て15歳が社会の一員とされていました。**16歳は将来を考え始める重要な時期**です。一方、**政治への無関心**が広がり、**国政選挙の投票率は約50%**、**市長選では30%台**と低迷しています。これを変えるには、若い世代が早い段階で社会に関心を持ち、積極的に参加することが必要です。**16歳からの投票権**は、そのための重要な一歩です

16歳は『選挙を習慣化する』チャンス年齢

家族と過ごすことが多いこの時期の環境を活かし、対話を通じて投票の重要性を学び、ただ投票権を与えるだけでなく、**社会や政治を考え、自立した判断力を育てることが**大切です。こうした教育が、民主主義の健全な発展につながります。私たち大人は、若者のために環境を整える責任があります。だからこそ、16歳からの投票権は**主権者教育**と共に、**次世代に未来への責任を託すために**必要です。



ブランデンブルグ州議会選挙(2014年9月)

先行する欧州では、若者と親との**同居率が投票率と相関関係**があり、**16歳への引き下げの効用が高い**という研究結果が出ています

日本をなめるな!

